

令和2年度 東京都立文京高等学校 学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導

① 学力スタンダードに基づく教科の到達目標を明確にし、教科内及び教科間の連携を深め、授業内容や方法の工夫・改善、授業時数の確保や家庭学習の促進、教材・定期考査問題の共通化、ICT機器の活用やアクティブラーニングによる主体的学習の推進、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上に向けた取組など、学力向上を目指す学習指導の充実を図った。

国内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休業中も、「学びを止めない」を合言葉に、5月初めから、(ア)Zoomを使った双方向でのオンライン授業、(イ)ClassiやYouTubeにより提供する授業映像や学習課題による学習、(ウ)紙ベースの教科書・問題集・課題等を活用した学習、の3つの方法を活用し、日々の授業及び学習の計画表に基づいて授業を行った。

② 土曜授業、習熟度別授業(数学、英語)、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた指導を行い、学力向上に向けた学習指導の充実を図った。

③ 数値目標である、自主学習室平均利用人数(1日当たり)は41.1人(昨年度15.5人)、大学入学共通テスト得点率60%以上の人数は248人(昨年度センター得点率70%以上122人)と、昨年度及び目標値を大きく上回った。長期休業中の講習は、コロナの影響により長期休業期間が大きく短縮されたが、講座延べ日数は193日と、前年度を上回る講座数を開講した。コロナ禍の中で自学自習の習慣が定着し、生徒の学力向上に結びついた。

イ 進路指導

① キャリア教育の全体計画に基づき、進路部と学年が連携し、将来設計に基づいた計画的・組織的な進路指導を行った。コロナの影響により、外部人材を活用したり生徒を一堂に集めたりすることができず、例年行っている進路行事が予定どおり進められなかったが、大学入学共通テスト元年として入試制度改革に迅速に対応し、早い段階から進路意識を高めるホームルーム活動での指導などにより、キャリア教育の充実を図った。

② 教科主任会及び教科会の定期的な開催により、教科指導及び進学指導の実践力を高めるとともに、模試分析結果を基にした全教員参加の進路研修会を開催し、確実な学力の向上と目標大学合格に向けた進路指導の取組を、学校全体が一体となり組織的に行えるよう進めた。

③ これまでの文京高校の進路実績を大きく上回る、近年で最も高い合格実績を上げた。数値目標である、国公立大学合格者数は38人(昨年度16人)、難関私立大学(早慶上理、GMARCH)合格者数はそれぞれ42人と213人で合計255人(昨年度114人)であった。難関上位校への合格者数の卒業生徒数に対する割合は83%と、高い目標を見事実現させた。

ウ 生活指導

① 「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において、規範意識を高め、自分で判断し決定し実行する自己指導能力を高める指導を行った。遅刻防止指導や頭髮・服装等の身だしなみ指導を行うとともに、集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を図った。

② 体罰根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むなど、人権尊重の教育を推進した。

- ③ コロナの影響により、外部人材を活用したり生徒を一堂に集めたりすることができず、例年行っている生活指導行事が予定どおり進められなかったが、未然防止や予防的指導の観点で、問題行動防止や犯罪被害防止などの指導を充実させた。

エ 特別活動・部活動

- ① コロナの影響により、学校が一つになる体育祭や文化祭等の学校行事が行えなかったが、生徒自治会の活動を支援し、学年ごとの体育フェスティバルや文化祭などを実施し、集団や社会の一員としての自覚と行動力、社会の発展に貢献しようとする自主的・実践的な態度を育成するよう努めた。
- ② 本校が目指す「文武両道」の精神のもと、部活動加入率 101%（昨年度 101%）を達成し、部活動の活性化や競技力の向上を図るとともに、成就感や自己肯定感を高める指導を行った。コロナの影響により活動ができない期間が長く続いたが、感染防止策の徹底を図りながら自主的・自発的な活動を支援した。
- ③ インターハイをはじめとする全国大会及び地区大会が中止となる中、数値目標として掲げた、関東大会レベル以上出場部活動 5 部以上の目標値を達成することができた。大会中止による 3 年生の部活動成果の発表の場も、各部活動で工夫して設定した。

オ 健康・安全

- ① 東京都教育委員会のガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症防止対策を全校挙げて取り組んだ。結果として、校内での感染は全くなかった。
- ② 教育相談委員会を年間 3 回開催し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、長期休業明けのアンケートを実施するなど、学校不適應の未然防止や自殺予防に向けた取組の充実を図った。
- ③ コロナの影響により、宿泊防災訓練などの従来の方法での防災教育は行えなかったが、避難経路確認や帰宅確認など方法を工夫した避難訓練を年間 4 回実施し、災害に対する自助の力と共助の精神を育むための防災教育を進めた。

カ 募集・広報活動

- ① コロナの影響により、従来行っていた学校説明会や学校見学会が行えず、密を避けるよう回数・人数・方法を工夫し実施した。ホームページを活用して資料掲載や動画配信などを行い、来校せずに学校の情報が得られるような新たな取組を進めた。しかし、授業公開、部活動体験、体育祭や文化祭の公開など、生徒が本気で何事にも取り組んでいる姿を見ることができなかつたのは残念である。
- ② ホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、年間 155 回（昨年度 120 回）の更新を行い、外部に積極的に情報発信をした。
- ③ 入学者選抜の応募倍率は、推薦に基づく選抜では 2.87 倍（昨年度 3.06 倍）、学力検査に基づく選抜では 1.39 倍（昨年度 1.53 倍）と、推薦は 5 年連続、学力検査は 4 年連続で前年度を下回った。

キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とした学校経営を行い、管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題の解決に向け組織的に取り組んだ。
- ② 経営企画室との連絡・調整・連携を強化し、迅速かつ効率的な業務を遂行し、事業の充実と推進に取り組んだ。
- ③ コロナの影響により、令和 2 年 10 月 31 日に予定していた創立 80 周年記念事業の開催を翌年 9 月に延期した。記念誌については、年度内に作成・発行した。

(2) 重点目標への取組と自己評価

- ①【学習指導】土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた教育課程を編成し、進学校として進学に向けた学力向上を図る指導を充実させた。授業においては、授業時数を確保し、新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度に応じた適切な内容・負荷・スピードによる指導を行うとともに、ICT機器の活用やアクティブラーニングによる指導の充実を図り、生徒の主体的学習を推進した。今年度はコロナの影響により臨時休業期間が長くあったが、休業中も「学びを止めない」ための工夫した学習指導を各教科で進めた。コロナ禍の中で自学自習の習慣も定着し、自主学习室平均利用人数（1日当たり）は41.1人（昨年度15.5人）であった。大学入学共通テスト得点率は、80%以上33人（10.2%）60%以上248人（76.3%）と、昨年度センター得点率70%以上122人を大きく上回る成果を上げた。
- ②【進路指導】大学入学共通テストなどの入試制度改革元年に当たり、急な制度変更やコロナの影響があったにもかかわらず、「ピンチをチャンスに」の合言葉のもと、高い目標の実現に向け学校全体で進路指導や進学指導に取り組んだ。結果、これまでの文京高校の進路実績を大きく上回る、近年で最も高い合格実績を上げた。国公立大学38人（昨年度16人）、早慶上理42人（昨年度13人）、GMARCH213人（昨年度101人）の現役合格者数であった。学校経営計画で文京スタンダードとして示した、卒業生の半数はGMARCH以上合格という目標を大きく上回り、難関上位校への合格者数は卒業生の83%に当たる割合であった。
- ③【生活指導】「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高めるよう指導を行った。数値目標として掲げた1日当たりのクラスの平均遅刻人数は0.5人（昨年度1.2%＝0.5人）と、2年続けて少ない数である。コロナの影響により、例年行っている生活指導行事が予定どおり進められなかったが、未然防止や予防的指導の観点で、問題行動防止や犯罪被害防止などの指導を充実させ、事故や問題行動等はなかった。
- ④【特別活動・部活動】コロナの影響により、学校やクラスが一つになる体育祭や文化祭等の学校行事が行えなかったが、生徒自治会の活動を支援し、学年ごとの体育フェスティバルや文化祭などを実施し、特別活動の目標を達成した。部活動は、「文武両道」の精神のもと、部活動加入率は2年続けて101%を達成し、感染防止策を徹底しながら部活動の活性化や競技力の向上を図るとともに、成就感や自己肯定感を高める指導を行った。インターハイをはじめとする全国大会及び地区大会が中止となる中、数値目標として掲げた、関東大会レベル以上出場部活動5部以上の目標値を達成することができた。
- ⑤【健康・安全】東京都教育委員会のガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症防止対策を全校挙げて取り組んだ。結果として、校内での感染は全くなかった。感染しない・させない取組が、感染に対する自助・共助の精神を育んだ。防災、健康、安全、個人情報の保護など、学校の危機管理や安全管理について全教職員で取り組み、事故の無い安全・安心で健康な学校づくりを行うことができた。教育相談委員会を年間3回開催し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、長期休業明けのアンケートを実施するなど、学校不適応の未然防止や自殺予防に向けた取組の充実を図った。引き続き、学校事故ゼロを継続していくよう取り組んでいく。
- ⑥【募集・広報活動】中学3年生の生徒数減少と最近の私立高校志向の影響を受け、入学者選抜の応募倍率は、推薦に基づく選抜は2.87倍、学力検査に基づく選抜は1.39倍と、推薦が5年連続、学力検査が4年連続で前年度を下回った。コロナの影響により、従来どお

りの形態での学校説明会や学校見学会が行えなかったため、ホームページを活用して資料掲載や動画配信などを行い、来校せずに学校の情報が得られるような新たな取組を進めた。しかし、授業公開、部活動体験、体育祭や文化祭の公開など、文京生の本気を見せることができなかつたのは残念である。本校教育活動の内容や成果を広く周知するため、例年や今年取り組んだ募集対策から一歩進んだ方策を講じていく必要がある。10月に開催予定であった創立80周年記念事業は翌年度に延期した。

- ⑦【学校経営・組織体制】組織的な学校運営を進め、諸課題の解決を図った。学校の特色化を更に進めるよう、これまでの教育の内容や成果を検証し、更なる教育活動の充実・発展に向けた取組を進めることができた。

(3)「今年度の数値目標」の実績

[]内は令和元年度実績

- ① 長期休業中の講習講座延べ日数150日以上
(コロナの影響による長期休業期間短縮のため昨年度数値目標200日から目標を下げた)
193日 [188日]
- ② 自主学习室平均利用人数(1日当たり)20人以上
41.1人 [15.5人]
- ③ 大学入学共通テスト得点率60%以上の人数180人以上
(昨年度はセンター試験得点率70%以上の人数150人以上)
248人 [122人]
- ④ 国公立大学合格者数30人以上
38人 [16人]
- ⑤ 難関私立大学(早慶上理、GMARCH)合格者数150人以上
255人 [114人]
- ⑥ 現役大学進学率90%以上
88.3% [81.4%]
- ⑦ 遅刻者の全生徒に対する割合(1日当たり)1%以内
1.2% [1.2%]
- ⑧ 1年生部活動加入率100%以上
101% [101%]
- ⑨ 関東大会レベル以上出場部活動5部以上
5部 [5部]
- ⑩ 図書館の年間貸し出し冊数5,000冊以上
3,985冊 [4,129冊]
- ⑪ ホームページ年間更新回数150回以上
155回 [120回]
- ⑫ 学校説明会の来場者数(1回あたり)1,200人以上
750人 [798人]
- ⑬ 入学者選抜応募倍率(学力検査)2.0倍以上
1.39倍 [1.53倍]

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、進学に向けた学力の向上を図る学習指導を一層充実させる。教科主任会及び教科会を定期的に開催し、教科内での指導内容や指導方法の共有化を図るとともに、教科間の連携を深め組織的な指導体制を構築し、意図的・計画的に学習指導を進めていく。自主学習室の利用拡大や進学対策講習の充実を図るなど、授業時間以外での生徒の主体的な学習を推進する。

(2) 進路指導

進学校としての進学指導を一層充実させ、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の更なる増加など、進学実績の向上を目指す。国公立及び難関私大の合格者数が卒業生の半数となることを目標とした文京高校スタンダードを83%と大きく上回ったため、その定着と更なる割合の向上を目指す。年間3回の進路研修会を年間計画の中に位置付け、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内及び教科間で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実に結び付けていく。大学入学共通テストなどの入試制度改革に迅速に対応する。

(3) 生活指導

引き続き、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高める。文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度を育成していく。近年、高校生や社会において発生している事故や事件等の情報を的確にとらえ、生徒の行動や心理に対する想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止の視点で、予防的指導を更に進めていく。

(4) 特別活動・部活動

「至誠一貫」の校訓のもと、学習面だけでなく、特別活動や部活動もひたすらに実践する生徒を育成する。勉強と部活動を両立させるためにも、部活動に関する活動方針を遵守し、効率的・効果的な部活動を実践する。生徒が主体的に取り組み、事故無く、成就感や自己肯定感を得られるような指導を進めていく。開催が延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、オリンピック・パラリンピック教育を継続して進める。

(5) 健康・安全

新型コロナウイルス感染症対策への対応を進め、生徒の命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を行う。学校不適應や中途退学の未然防止及び自殺予防に対する指導や対策を進め、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制を充実させ、生徒個々の状況把握と一人一人に応じたきめ細かい指導を進めていく。防災教育や安全指導を徹底し、災害に対する指導や事故の未然防止を図る。

(6) 募集・広報活動

入学者選抜の応募倍率向上を目標とし、募集・広報活動の充実・改善を図る。例年進めていた募集対策の内容を見直し、中学校への訪問や出前授業を行うなど、積極的な情報発信を組織的に行っていく。開催を延期した創立80周年記念事業の成功を目指し、組織的・計画的に準備を進める。

(7) 学校経営・組織体制

東京都教育委員会からの指定や支援を受け、教育活動の充実・発展に取り組むとともに、法令・規則等に基づく組織的な学校運営を更に進め、引き続き諸課題の解決を図っていく。